

平成 30 年 8 月 4 日

## NPO 法人ふくてっく 第 17 回総会議事録

会員出席状況報告 中北事務局長は 現在正会員数 37 名、  
出席会員数 23 名、(うち委任状提出 4 名) の出席があり、  
総会が成立することを報告した。

議長選出 全会一致で、小川理事を議長に選出。

小川理事は議長席につき、13:41 分に開会を宣言。

書記および議事録署名人の指名

議長は、議事録署名人として 和泉会員と清水会員を指名。

議事録作成を中北会員に指示した。

### 1 号議案 平成 29 年度活動報告・各部収支報告 資料 P1～P13

議長は第 1 号議案について各担当理事からの報告を求め、質疑等については、最後にまとめて問うと宣言し、まず自ら理事長総括について報告した。

#### 1-1 理事長総括

当会は 29 年度も 3 つの部会がそれぞれに活発に活動できているときにこそ会員増強を図りたい。また、ややもすると活動参加に敷居が高いと感じられる部分も否めないで、今後は各部会活動のなかに、全ての会員がより参加しやすい環境創出することに腐心して、ますます活動を楽しく活性化できるように図りたい。

#### 1-2 事務局報告 (中北事務局長)

29 年度は議案書に示した通り、例会での学習会その他を実施してきた。また運営会議、理事会、総会の実施状況も議案書きさいのとおりである。

#### 1-3 ふくてっくのつどい (小川理事長)

多くの会員参加を得て、子ども対象の木工を中心に活発に活動した。単なるイベント参加ではなく、それぞれにテーマをもって取り組んできた。収入については先方の事情次第で決まっており、その中から参加メンバーには少ないながらも交通費程度の支給を行っているので、3 万円余の赤字となっている。たいけん活動、ものしり活動については、会員の親睦・交流を兼ねて取り組んできた。

#### 1-4 東大阪部会

東大阪市委託事業では、29 年度から改造費助成の対象から高齢者が外れたため、例年 50 件前後あった申請が 10 件足らずに激減している。一方、ケアマネや業者を対象とする研修活動は活発に実施できた。

寝屋川市の活動は、市の柔軟な姿勢もあって当方の思いがよく達成できている。大阪市住まい情報センターのタイアップ事業は大変好評で、産経新聞にも大きく取り上げられた。ワンポイントアドバイスは今回も未実施に終わった。

収支については、東大阪市への報告書作成が遅れて、その支払いが実行できていないのでこれを未払い計上とする結果、686,120円の差益となった。

#### 1-5 こむねっと部会

年度初めから天王谷学園の第三者評価を進めていたが、秋以降に㈱ぐりーんからの評価依頼、そして年末に3件の児童養護施設から評価依頼があり、大変忙しい年となった。メンバーの活躍で無事終了している。第三者評価事業は13年の長きに亘り低迷していたが、ようやく活性化の兆しが見えるに至った。

そのほか、地域資源利活用構想は、大阪NPOセンターとの連携で4回にわたる分科会を開催し、課題の整理と協力ネットワークの構築に努めた。

その他、2018年初からは、ゆめ風基金との協働で、障害者居住環境の減災支援の活動（仮称：リスクノック）に取り組みを開始しているが、まだその取り組みの体制づくりを模索している段階にある。

収支としては第三者評価が若干汚赤字（対収入比約6%）のほか、収入のない活動もあり。建物調査活動の収益があるが、全体として3万円余の赤字となっている。

#### 1-6 NPO15周年記念事業

当会は、NPO認証を得て以来、3部会の活発な活動に支えられて現在に至っている。その15年をふり返り、ますます社会との連携を深めるべく、10/1にNPO15周年を記念する事業としてシンポジウムを開催した。富山県海望福祉会から総合施設長大崎雅子氏を講師に招き、社会福祉事業の今日的な課題である、人財育成および障害者の就労支援をテーマとしたシンポジウムを開催した。外部からも多くの参加者を得て成功裏に終了している。なお、報告書は作成できていない。

以上、2号議案について各担当理事からの報告を受け、議長は会員に意見を求めたところ、一同異議なくこれを承認した。

### 2号議案

#### 平成29年度決算報告

資料 P13～P16

議長は平成29年度の決算について中北事務局長にその報告を指示した。

中北事務局長は総会議案書の記載に沿って、前年決算、期首予算との比較をしながら、各勘定科目の状況を説明した。東大阪部会では改造費助成制度変更があり、事業収入が減少している。期首には約40万円の赤字を想定していたが、未実施に終わった事業もあり、決算では約15万円の赤字に留まっている。今期はNPO15周年記念事業を行っており、その費用により約17万円の欠損を生じていることを勘案すれば概ね健全な運営であったことを報告した。

議長は、以上の報告を受けて会員に意見を求めたところ、一同異議なくこれを承認した。

### 3号議案

#### 同上に係る監査報告

資料 P17

議長は秋岡監事に29年度会計監査および事業監査の報告を求め、秋岡監事は平

成 30 年 7 月 30 日に稲住監事とともに監査を実施したところ、会計・事業ともに健全であることを確認したと報告した。

#### 4 号議案                    平成 30 年度活動計画 ・各部収支計画                    資料 P18～P25

議長は、平成 30 年度の活動計画および収支計画について各部担当理事に報告を求め、冒頭に自らふくてっくの集いについての計画を述べた。

##### 4-1 ふくてっくのつどい

昨年度に引き続き、ものづくり活動、たいけん活動、ものしり活動を継続する。ものづくり活動は、昨年度と同じく子ども対象に木工活動を、それぞれのテーマを明確にしつつ進めてゆく。こどもホスピスへの活動参加については現段階では見通しが立っていない。ものづくり活動については、今期も若干の赤字を想定している。たいけん活動やものしり活動を含めて、できるだけ多くの会員の参加機会を創出して行きたい。

##### 4-2 東大阪部会

東大阪市における検証活動は 13 年目に入るが、引き続き適正検証および研修活動に努めてゆく。30 年度から大橋会員、中北会員がメンバーから外れ、春岡会員が復帰し 12 名となった。各メンバーともに、本務が忙しくなっており、検証スケジュールへの担当割振りが難しくなっている。

大阪市住まいの情報センター出前講座を始めている。すでに 7 月以降実施した講座では、市民の介護保険制度理解が不足していることが浮かび上がっている。

##### 4-3 こむねっと部会

第三者評価事業については、大阪府社協が平成 30 年度末をもって評価事業から撤退することがきまり、大きな転換期を迎えている。当会も昨年度からの活性化を定着すべく、事業発展を模索してきたが、待ったなしの状況である。体制を見直して臨みたい。

他の活動については状況に応じて対応するが、当面は第三者評価を中心に活動することになる。第三者評価の活動が量的に拡大すると、メンバーへの活動費配分を向上する必要がある、この点についても見直しが避けられない。

予算計画については、昨年度対比大幅な増額が見込まれるが、収支差額については大きなプラスは期待できない。

以上、3 号議案について各担当理事からの報告を受け、議長は会員に意見を求めたところ、一同異議なくこれを承認した。

#### 5 号議案                    平成 30 年度予算計画                    資料 P26～P27

議長は平成 30 年度の予算計画について中北事務局長にその説明を指示した。

中北事務局長は総会議案書の記載に沿って、29 年度決算額との比較をしながら、各勘定科目についての予算計画を説明した。

事業収益については、こむねっと部会の福祉サービス第三者評価が大きく伸長す

ることから大幅な増額が予想される。一方活動の拡大は当然に旅費交通費や諸謝金の増大を招くので収支は約 20 万円強の赤字を想定していると説明した。

議長は、この説明を受け、活動の発展に伴う積極的な予算編成であることへの理解を求めたところ、一同その趣旨に賛同し意義を地なえるものはなく承認した。

## 6 号議案

### 定款変更の件

資料 P28

議長は、定款の変更が必要となったことを延べ、その説明を秋岡監事に求めた。秋岡監事は、特定非営利活動法人の貸借対象法の公告義務が厳格化された経緯と、現行の定款ではこれを官報に記載して公告することになっているが、費用の掛からない方法として自法人のホームページ上に掲載することに替えたいので、そのために定款変更を行う必要がある旨、説明した。

議長は、これに補足して、かねてより微細な項目について、いくつか定款変更しておきたい件が累積しているため、この際それらもあわせて変更処したい。については変更内容等について理事会一任を頂きたいと発言し、会員に意見を求めたところ、一同異議なくこれを承認した。

議長は以上をもって、予め用意した全ての審議を終了したこと延べ、他に動議がないことを確認したうえで、15：10 に閉会を宣言した。